

はじめに(朔)：「一般社団法人 禁煙推進学術ネットワーク」は、喫煙によって生ずる疾患と禁煙方法や禁煙治療薬に関する研究、一般市民への知識の普及啓発などの禁煙推進活動を通して、種々の喫煙関連疾患の減少に取り組み、国民の健康増進に寄与することを目的とし、その目的を達成するために次の事業を行うとその定款に記されています。

- (1)喫煙関連疾患と禁煙、喫煙問題に関する研究の企画・実施及び助成、
- (2)監督官庁などに対する政策提言、
- (3)国内外への情報発信、一般市民への啓発など禁煙推進のための社会貢献活動。

従って、禁煙啓発活動、禁煙治療のガイドライン・標準手順書の作成と改訂、最近では遠隔医療と禁煙治療の確立、受動喫煙防止に向けた様々な取り組み、オリンピックを前にした地域禁煙の要望、政府への様々な提言(禁煙治療の診療報酬に関する案件や、自治体における禁煙への条例・罰則・法律等要求)、新型タバコの急性肺障害への影響調査、タバコから子供を守る委員会の開催、新型コロナウイルス感染症と喫煙問題、タバコ関連企業からの資金提供による研究の検討、周術期禁煙推進等々、多くの活動を行っています。現在、最大の会員数を誇る日本内科学会をはじめとし、33学会(下図)が参加する大きな組織として成長を継続しています。本



禁煙啓発キャラクター・すわん君と学会ロゴ入りマスク

会は理事会、各種委員会、および定例会議を定期的に開催していますが、会員相互の交流を目的として2018年から学術総会を立ち上げたのですが、新型コロナウイルスのおかげで、延期になった第3回学術会議をやっと、本年11月に開催でき大変うれしく感じているところです。今回の発表演題は、今後、様々な形で紹介したと思いますが、本学術総会のアイスブレイクで呼び出したオリンピックアスリート、陸上短距離の兒玉芽生選手のインタビューをご紹介します。



朔： 福岡大学はPayPay ドーム45個分の敷地の中に、9学部と病院が1か所に存在します。つまり、一大アカデミッククラスターを、福岡市城南区に形成しています。ワンストップユニバーシティと呼ばれますが、医学部・病院を有する数少ない地方私立総合大学です。福岡大学のスポーツは有





・**兒玉芽生選手**(人文学部教育・臨床心理学科4年生)

陸上女子4×100mリレー
今年6月の日本選手権では女子100m、200m共に優勝。女子短距離界の新エース。

・**藤野遼選手**(2020年商学部卒業)

女子SL4(立位・下肢障がい)クラスのバドミントン
在学中には国際大会での優勝も経験。

・**梅野隆太郎選手**(2014年スポーツ科学部卒業)

野球(捕手)。阪神タイガース正捕手としてオールスターにも出場し大活躍中。

・**金丸晃輔選手**(2007年附属大濠高校卒業)

バスケットボール。現在、B.LEAGUEの島根スサノオマジック所属。

・**上野由岐子選手**(2001年九州女子高校[現:附属若葉高校]卒業)

ソフトボール(投手) 2008年北京五輪に続き今回も金メダルに貢献。

金・紫綬褒章

金・紫綬褒章

名ですが、キャンパスには、新築されたばかりのプールをはじめ、陸上競技場、総合体育館、サッカー場やラグビー場、そのほか、各種体育施設があります。今回の2020東京オリンピック・パラリンピックに5名の福岡大学生、卒業生、附属高校卒業生がいました。その中でも金メダリストは2人、阪神タイガースの正捕手をしている梅野隆太郎さん(2014年スポーツ科学部卒業)と上野由紀子さん(2001年九州女子高卒:現附属若葉高校)がいます。上野選手はソフトボールのピッチャーとして、ほとんどの日本人が知っているのではないのでしょうか?今日は、福岡大学人文学部教育・臨床心理学科4年生の兒玉芽生選手に来ていただきインタビューをさせていただきます。兒玉さんは今年の日本陸上(日本選手権)で100メートル、および200メートルの優勝者で、今回のオリンピックは400メートルリレーで第2走者として出場しました。予選で敗退しましたが、陸上競技の世界の壁は大きく、その時の様子など伺ってみたいと存じます。

朔: オリンピックの400メートルバトンリレーの時、バトンが落ちないように祈ってました。孫がオリンピックに出場した思いで観てましたよ(笑)。さて、いつ頃から、走るのが得意だったのですか?幼稚園の時からとか?

兒玉: 幼稚園の頃から男の子と一緒に走ってました。他の勉強よりは、かけっこが得意でしたね(笑)。算数や理科などと比べると圧倒的に体育は得意でした。

朔: ご両親の才能を受け継いだものですね?ご兄弟は走るのが速いの?

兒玉: 母が陸上選手、ハードルの選手でした。父は野球をしていて、姉は陸上選手でハードルで国体に出場し優勝していました。スポーツは得意な一家だったと思います。

朔: 長距離はもともと合わなかったのですか?短距離走者と長距離走者は、筋肉の質や遺伝子が違うと、スポーツ科学部の先生たちと共同研究して、そのような結論を出しています。

兒玉: 長距離は全然得意ではないです。一瞬で終わる短距離が好きですね。100分の1秒、わずか10cmで運命が変わる競技ですので、迫力があります。難しいスポーツだと思います。

朔: 彼女は普通のお嬢さんにみえますが(笑)。陸上短距離で日本一などには見えませんが、オリンピックの選手村の状況、食事など、PCRチェックはどうしてました?

兒玉: PCR検査は毎朝やってました。1週間前には東京で練習していたのですが、その時も毎日



兒玉芽生選手(福岡大学人文学部教育・臨床心理学科4年生)



PCR 陰性でないと練習できないのです。コロナに罹ったら試合に出れません。選手村では、毎朝唾液の PCR 検査でした。世界ランク1位の方も陽性になって、試合に出場できない人もいましたので。試合が終わって48時間以内に退室しないといけないルールがありましたから、開会式や閉会式には出ていません。楽しみにしていたのですが。選手村は将来的に分譲マンションになるようです。食事は朝から晩まで、食べることができます。24時間営業しています。噂の餃子ですが、確かにおいしかったですね。各国の料理がそろってますね。

朔： パリのオリンピックが3年後に開催されるけど、どんなことが、今から大切ですか？応援しに行きたいのですが。

兒玉： もちろんパリを目指します。今回は400

メートルリレーにしか出場できませんでしたが、100メートル単独でオリンピックを目指したいと考えます。標準記録を達成するか、世界ランキングが上位であれば100メートル走に出場できます。今からそれに向かって頑張りたい、プログラムしているところです。

朔： 現在、福岡大学の陸上競技場を修理しています。君のために(笑)。将来の人生の展望についてお話を聞かせていただけますか？

兒玉： そこまで深く考えてないのですが、ここまでくるに至って、故郷の大分県や福岡県の方々に大変お世話になりました。その恩返しをしたいと考えています。また、陸上スポーツに貢献できるようになればと考えています。

朔： 福岡大学スポーツ科学部には、元オリンピック選手の教授もおられますが、僕の大学院、博士課程に入って、将来教官になっていただけると有難いと考えます(笑)。それでは、皆さんに最後、一言お願いします。

兒玉： 今回のオリンピックでは、国を背負って戦ったのですが、十分な結果を出せずに終わりました。次回のパリに向けて、100メートル、200メートルのファイナリストになりたい、そうすることで、福岡県、福岡大学がさらに盛り上がってほしいかなと思います。今後とも応援よろしくお願いします。

Prof. S. Miura's Commentary

新型コロナウイルス感染症のために延期・延期になっていた「第3回禁煙推進学術ネットワーク学術総会」(日本内科学会担当)をやっと開催できてうれしく思います。今回は、オリンピックアスリート、兒玉芽生選手がアイスブレイクに参加していただきました。日本一の短距離走者とは思えない、とてもかわいいお嬢さんでした。

私たちは以前から福岡大学のスポーツ科学部と共同研究を続けてきました。降圧運動療法の先駆的研究によって高血圧治療のガイドラインに常に採用されている研究を残し、福岡大学病院での心臓リハビリテーションセンターの立ち上げにも、医学部とスポーツ科学部の2つの学部が共同して行いました。運動に必要な骨格筋の情報と遺伝子の関連でも世界に誇る研究を行ってきました。これからもこのような共同研究を通して福岡大学をアピールしていきたいと存じます。皆様のご支援をよろしくお願いいたします。